

# JFM だより

vol. 22

## INDEX

- 01 融資の実
- 05 がんばる公営競技
- 07 JFM Topics
- 11 自治体ファイナンスよもやま話
- 13 地方支援ダイアリー
- 15 金融ひとくちメモ
- 17 人事交流日記&ふるさと紹介
- 18 編集後記
- 19 機構からのお知らせ
- 19 私たちもJFM債買ってます!

[JFMとは、**J**apan **F**inance Organization for **M**unicipalities の略称です。]


## Feature

# 徳島県鳴門市 トリーデなると



地方公共団体金融機構  
Japan Finance Organization for Municipalities



融資の実  機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。

**Feature** 徳島県鳴門市 トリーデなると

## 鳴門市のシンボルとして親しまれる 防災と交流の拠点

平成28年3月、『トリーデなると』が防災拠点としてリニューアルオープンしました。

鳴門市街を見下ろす妙見山に建つ三層天守閣様式は、  
鳴門市のシンボルとして親しまれる防災と交流の拠点です。

## 南海トラフ巨大地震への備え

駿河湾から日向灘沖までの南海トラフにおける地殻の境界を震源とする南海トラフ巨大地震の切迫性が高まっており、各地でその対応が急務となっています。

鳴門市は徳島県の北東端にあり、瀬戸内海、紀伊水道に面し、海岸線に近く海拔が低い地域に市街地を有するという地理的特徴があり、南海トラフ地震防災対策推進地域及び南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域に指定されています。

「南海トラフ巨大地震が発生した場合、市街地の沿岸部では地震だけでなく津波による被害も想定されています。これらの災害に対する備えが市にとって重要な施策の一つになっています。」(三居康伸課長/「」内のコメント以下同)

東日本大震災の際、徳島県にも津波警報が発表され、市民は高台に避難しました。標高62mの妙見山もその一つとなりました。その山頂には鳴門市の防災拠点の一つである『トリーデなると』があります。

妙見山には、かつて阿波九城の一つ岡崎城(撫養城)があり、その城跡は、現在、妙見山公園となっています。山頂には、昭和40年に徳島県出身の人類学者鳥居龍蔵博士を記念した徳島県立鳥居記念博物館が、三層天守閣様式というユニークな外観で建てられ、鳴門市のシンボルとして多くの人達に親しまれていましたが、平成22年に老朽化などの理由により閉館となりました。

鳴門市では、妙見山が防災上重要であることや、旧博物館が多くの人達に親しまれていたことから、徳島県から旧博物館の移管を受け、緊急防災・減災事業債を活用して地域防災計画上の避難所とされている公用施設の耐震化を図り、平成28年3月に防災拠点『トリーデなると』としてリニューアルオープンしました。

『トリーデなると』の名称は、市が行った公募によって決められたものです。旧称の『鳥居』と『防災拠点として市民を守る『砦』(とりで)になってほしい』という意味が込められています。



▲ 桜の季節は花見客でにぎわう



▲ 展望台からの眺望



▲ 企画展示の様子



▲ 最上階の防災カメラは鳴門市消防本部のモニターで常時監視

## 防災と交流の拠点

『トリーデなると』は、鉄筋コンクリート造の4階建てで、多目的ホールや多目的室を兼ねた避難所や災害用備蓄倉庫などによって構成され、食料や毛布などの資材を備蓄しています。

最上階の4階には、近隣の海岸や市街の様子を監視する防災カメラを設置し、通信によって鳴門市消防本部のモニターと結び、常時監視しています。また、地震を感知して自動解錠する鍵ボックスを設置し、災害時に地域の住民が迅速に避難できる仕組みも整えています。

『トリーデなると』では、防災拠点としてのハード面の機能を充実させるとともに、地域の自主防災会などと連携して近隣の

小中学校の児童・生徒が参加する見学イベントを実施するなど、ソフト面での対策も進めています。」

また、『トリーデなると』は、防災拠点でありながら、交流の拠点にもなっています。多目的ホールや多目的室は、会議やギャラリーなどにも利用できる空間となっており、市民や市内団体に無料で貸し出され、写真展や絵画展などのイベントが開催されています。最上階の展望台からは鳴門市内を360度見渡せることはもちろん、紀伊水道や淡路島も望むことができ、来館者を楽しませています。

周辺の妙見山公園は桜の名所として知られ、春には多くの人々が訪れます。お花見の時期には、1日の来館者数が1,000人を超える日もありました。

融資の実

恵まれた自然と、豊かな文化が息づくまち鳴門市 .....



▲ 鳴門の渦潮

「渦潮」で全国にその名を知られる鳴門市は、四国の東部、徳島県の東北端に位置しており、鳴門海峡を隔てて間近に淡路島を臨み、本州と結ぶ四国の東玄関となっています。平成10年に神戸淡路鳴門自動車道、平成14年には高松自動車道が開通し、隣の松茂町には「徳島阿波おどり空港」もあることから、四国と本州の結節点となる交流拠点都市として重要な役割を担っています。

古くから農業や漁業が盛んで、名産品が数多くあります。鳴門海峡の激しい潮流に

もまれて育つ「鯛」や「わかめ」、甘さも肉質も一級品で全国的に有名なさつまいも「なると金時」、更に「れんこん」や「らっきょ」も、関西の料亭などで重宝される名品です。近年は、こうした名産品のブランド化にも積極的に取り組んでいます。

市北部の瀬戸内海国立公園をはじめ、自然に恵まれた景勝地が多くあり、急流逆巻く鳴門海峡の渦潮は、潮流のスピードが最速時には約20km/hにもなり、世界三大潮流の一つといわれています。



▲ 災害用備蓄倉庫

## 市民に身近な存在をめざして

『トリーデなると』としてリニューアルオープンから1年が過ぎた平成29年4月には総来館者数が2万1千人を突破するなど、早くも多くの人達から親しまれています。また、外国人観光客が外観に関心を抱いて来館するなど、鳴門市のシンボルとしても定着しています。

「今後は、備蓄する食料や資材を充実させるなど、防災機能を更に強化していきます。また、交流の場としての仕掛けづくりにも積極的に取り組み、より多くの市民に親しんでいただくことで、防災拠点としての『トリーデなると』の認知度をより高めていきたいと考えています。」



鳴門市企画総務部戦略企画課  
三居 康伸 課長(左)・梶原 真 副課長(右)

また、四国八十八カ所霊場巡りの出発点である一番札所霊山寺や、阿波国一之宮として多くの参拝者が訪れる大麻比古神社など、歴史的・文化的な観光資源も豊富です。

鳴門市は、ベートーヴェン作曲の交響曲第9番(第九)アジア初演の地としても知られています。第一次世界大戦下の大正6年(1917年)、現在の鳴門市に板東俘虜収容所が置かれました。収容所では人道的で敬愛に満ちた運営方針が採られ、大正7年(1918年)、ドイツ人捕虜によりアジアで

初めて第九が全曲演奏されたのです。この史実や平和の尊さ、思いやりの心の大切さを後世に残し、世界へも伝えるため、その事実を記録した「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」への登録を目指しています。

### 徳島県鳴門市

人口:58,999人(平成29年3月末現在)

世帯数:26,392世帯(平成29年3月末現在)

面積:135.46km<sup>2</sup>



▲ ベートーヴェン「第九」交響曲演奏会